

阪南市埋蔵文化財報告 54

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 33

2 0 1 6 年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる大阪府下でも自然豊かな立地に所在しています。

高度成長期に始まった開発の波による自然破壊と共に、多くの遺跡が消滅していく中で、本市教育委員会では昭和60年度より国庫補助を受けて発掘調査を続けてまいりました。その結果、これまでに貴重な資料を得ることができ、地道な作業の積み重ねで、地域に新しい歴史の発見がありました。

本書は平成27年度の国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。

今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました土地所有者並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成28年3月31日
阪南市教育委員会



第1図 大阪府阪南市位置図

例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が阪南市内において実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、平成27年に国庫補助事業として計画、実施した。
3. 現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野 仁、須崎雄一朗(嘱託)を担当とし、平成27年1月から12月にかけて行った。
4. 本書内で示した標高はT. P. (東京湾平均海面)を基準としている。
5. 土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(2000年版)を使用した。
6. 発掘調査にあたっては土地所有者をはじめ、関係者各位の理解と協力を得た。
ここに記して感謝の意を表したい。
7. 本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。
8. 本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。
9. 発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。
　　南 竹千代、杉田正千代、古牧 敬、滑田幸男、菱山良太、山口英介、
　　和田旬世、井上祥子、井上 進、島田万帆

目 次

第 1 節	尾崎清水遺跡	(1) 15 - 1 区	1
第 2 節	馬川遺跡	(1) 15 - 2 区	2
第 3 節	下出遺跡	(1) 15 - 1 区	4
第 4 節	黒田南遺跡	(1) 15 - 1 区	5
第 5 節	鳥取遺跡	(1) 14 - 1 区	6
第 6 節	鳥取南遺跡	(1) 14 - 2 区	7
第 7 節	西鳥取遺跡	(1) 15 - 1 区	10
第 8 節	神光寺(蓮池)遺跡	(1) 15 - 1 区	11
		(2) 15 - 2 区	12
第 9 節	自然田遺跡	(1) 14 - 1 区	13
第 10 節	貝掛遺跡	(1) 15 - 1 区	15
第 11 節	箱作今池遺跡	(1) 15 - 1 区	16
		(2) 15 - 2 区	17
第 12 節	田山東遺跡	(1) 14 - 1 区	20
		(2) 14 - 2 区	
		(3) 15 - 1 区	21
第 13 節	下出範囲外	(1) 15 - 1 区	22
第 14 節	黒田範囲外	(1) 15 - 1 区	23
第 15 節	自然田範囲外	(1) 15 - 1 区	24
第 16 節	鳥取中範囲外	(1) 15 - 1 区	25
第 17 節	和泉鳥取範囲外	(1) 14 - 1 区	26
報告書抄録			27

1	田 池 古 濟	2	平野寺 張古頭	3	玉 田 田 田	4	久 保 田 西 田	5	久 王 田 山 田	6	久 倍 田 山 田	7	久 倍 田 山 田	8	桑 田 本 松	9	石 田 三 木	10	石 田 三 木	11	石 田 三 木	12	黑 田 北 遠	13	兔 川 遠	14	三 本 松 遠	15	水 附 遠	16	日 光 附 遠	17	光 附 遠	18	日 光 附 遠	19	日 光 附 遠	20	日 光 附 遠	21	田 山 通	22	田 山 通	23	清 流 附 遠	24	篠 作 今 通	25	茶 田 通	26	四 田 太 遠	27	山 中 溪 石 通	28	勝 道 谷 通	29	勝 道 谷 通	30	勝 道 谷 通	31	篠 作 今 通	32	玉 田 田 通	33	井 田 通	34	井 田 通	35	目 田 通	36	福 田 通	37	坂 ノ 田 通	38	金 附 通	39	馬 田 通	40	内 田 通	41	下 田 通	42	室 壇 通	43	向 田 通	44	久 田 通	45	高 田 通	46	高 田 通	47	向 田 通	48	小 口 通	49	西 田 通	50	正 田 通	51	黒 田 通	52	鳥 田 通	53	鳥 田 通	54	鳥 田 通	55	鳥 田 通	56	鳥 田 通	57	英 田 通	58	梅 田 通	59	梅 田 通	60	山 中 通	61	馬 田 通	62	和 田 通	63	尾 田 通	64	尾 田 通	65	尾 田 通	66	尾 田 通	67	尾 田 通	68	尾 田 通	69	尾 田 通	70	尾 田 通	71	尾 田 通	72	尾 田 通	73	尾 田 通	74	尾 田 通	75	尾 田 通
---	---------	---	---------	---	---------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---	---------	---	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	-------	----	---------	----	-------	----	---------	----	-------	----	---------	----	---------	----	---------	----	-------	----	-------	----	---------	----	---------	----	-------	----	---------	----	-----------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	---------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第1節 尾崎清水遺跡

尾崎清水遺跡は男里川下流左岸の氾濫原に位置し、平成4(1992)年度の民間開発工事に伴う事前調査で発見された遺跡である。その後の調査では、縄文時代晚期から近世期の遺物や古墳時代中期の竪穴住居が検出している。また平成23(2011)年度の調査では、縄文時代の遺物を含む河川が古墳時代に一部居住地になり、中世期には農地へと整備されていった変遷がうかがえる。

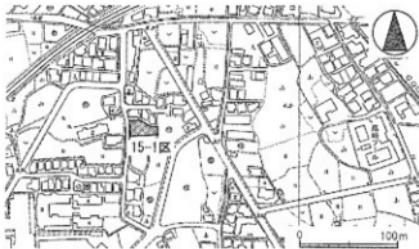
(1) 15-1区（第3～6図）

調査区は尾崎清水遺跡の東部に位置する。調査区の西部に2.5m×1.7mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層5Y6/3オリーブ黄色土(マンガン混)、第4層2.5Y6/1黄灰色土(マンガン混)、第5層2.5Y4/1オリーブ褐色土、第6層2.5Y7/6明黄褐色土(マンガン混)、第7層5Y5/4オリーブ色土(マンガン混)、第8層2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土、第9層10YR6/4にぶい黄褐色砂質土、第10層5PB5/1青灰色砂混粘土、第11層5Y5/3灰オリーブ色砂混礫で、掘削可能な深さまで掘削したが明確な地山は確認できなかつた。

遺物は第3層から瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、第4層から弥生土器、須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、第5層から弥生土器、須恵器、土師質土器、第8層から土師器が出土した。第3～5層は中世期、第8層は古墳時代の層と思われる。1は第4層から出土した土師質小皿。2は第8層から出土した土師器瓶である。

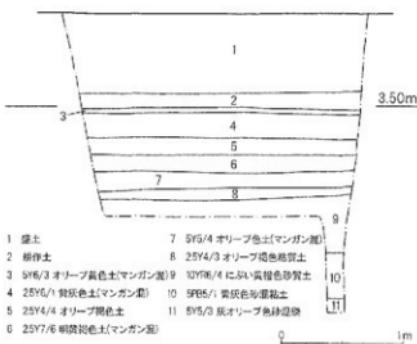
遺構は検出されなかつた。



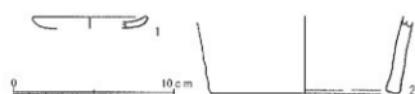
第3図 尾崎清水遺跡 調査区位置図



第4図 尾崎清水遺跡15-1区 トレンチ位置図



第5図 尾崎清水遺跡15-1区 トレンチ北側断面図



第6図 尾崎清水遺跡15-1区 出土遺物

第2節 馬川遺跡

馬川遺跡は、市域北東部を流れる男里川の左岸に位置し、砂州である低地部と和泉山脈から派生した段丘上にまたがっている。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査により発見、周知された。

遺跡は北を縄文時代後期から弥生時代中期の流路を検出した馬川北遺跡、南は中世期の墓地を検出した下出遺跡、西は平安時代から近世期の遺構、遺物を検出した内畠遺跡によって囲まれ、男里川の対岸には縄文時代以降の複合遺跡として知られる泉南市の男里遺跡が所在する。

低地部である東部と段丘上である西部では遺跡の性格が異なり、低地部ではサヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器等の弥生時代から奈良時代にかけての遺物が多く出土し、段丘上では多量の中世瓦が出土していることから付近に中世寺院の存在が想定される。また、縄文時代晩期の土器が出土し、古墳時代の堅穴住居、中世期の蛸壺焼成土坑、近世期の墓地等も検出されている。

(1) 15-2区 (第7~10図)

調査区は馬川遺跡の中央部に位置する。

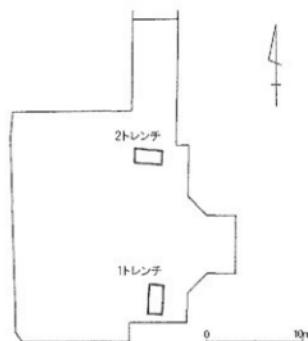
調査区に2ヶ所のトレンチを設定し、合計9.76m²の調査を行った。

1トレンチの層序は第1層耕作土、第2層7.5YR4/4褐色砂質土、第3層10YR4/2灰黄褐色土(マンガン混)で、2トレンチでは第3層がなく第2層の下に2.5Y4/6オリーブ褐色土(マンガン混)が存在する。第4層以下は近隣の既往調査より流路の埋土と考えられ、1トレンチでは地表面より約-2.00m、2トレンチでは地表面より約-2.35mまで掘削したが地山の検出には至らなかった。

遺物は第2層からサヌカイト、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、製塙土器、土師質真蛸壺、土師質有孔土錐、中世瓦、第3層から土師器、須恵器、瓦器、土師質土器が、2.5Y4/6オリーブ褐色土(マンガン混)からスサ入り焼土塊が出土した。第2・3層は中世期の層である。1・2は瓦器椀、3は土師質



第7図 馬川遺跡 調査区位置図



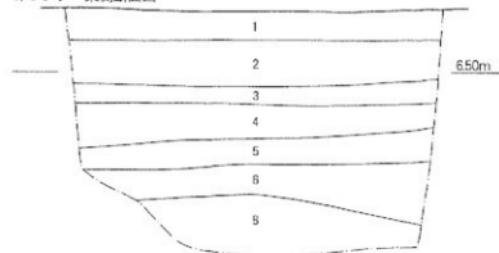
第8図 馬川遺跡15-2区 トレンチ位置図

小皿、4は土師質有孔土錐で、1～4は第2層から出土した。

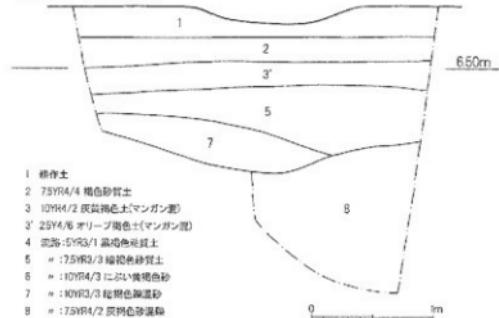
流路には粘質土、砂質土、砂、礫等が堆積しており、遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。5・6は弥生土器甕、7は須恵器高坏の脚部で三方に方形の透かし孔がある。8は弥生土器甕の底部である。5・6は7.5YR3/3暗褐色砂質土、7は10YR4/3にぶい黄褐色砂、8は7.5YR4/2灰褐色砂混礫から出土した。

今回の結果を受け、本調査を行うこととなった。

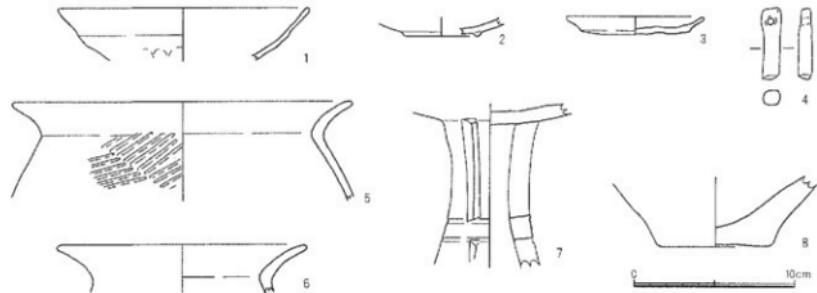
1トレンチ 東側断面図



2トレンチ 北側断面図



第9図 馬川遺跡15-2区 トレンチ断面図



第10図 馬川遺跡15-2区 出土遺物

第3節 下出遺跡

下出遺跡は遺跡の北部を信長街道が東西に貫通し、西部は井関越街道と接し、古い民家が立ち並ぶ旧集落に位置する。平成3(1991)年度の民間開発工事に伴う確認調査で発見された。その後の調査では鎌倉時代から近世期にかけての瓦が多量に出土しており、付近に寺院の存在が想定されている。

(1) 15-1区 (第11~14図)

調査区は下出遺跡の東部に位置する。調査は調査区の北部に2.3m×1.3mのトレンチを設定し行った。

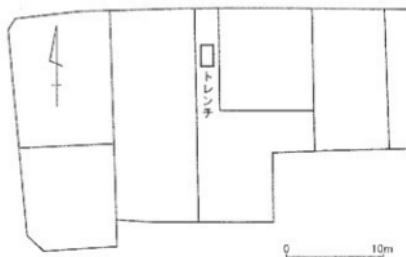
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層10YR5/6黄褐色粘質土、第4層2.5Y6/2灰黄色粘質土、第5層2.5Y6/4明黄褐色粘土で、第5層は地山である。地山は地表面から約0.95mで検出した。

遺物は第4層から黒色土器、瓦器、土師質土器、須恵質土器、青磁、磁器、土師質真蛸壺、炭化木片が出土した。近世期の包含層である。1は磁器の紅皿。型づくりで、内面から口縁部にかけて透明釉が施されている。

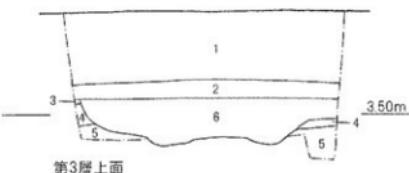
遺構は第3層上面で土坑を検出した。東西1.10m以上、南北2.10m以上の不定形を呈し、大半はトレンチ外に広がる。深さは最深部で0.40mを測るが、底面にはかなりの凹凸があり、形状から倒木痕と考えられる。埋土は7.5Y5/2灰オリーブ色砂混土で、遺物は近世期の土師質土器、磁器が出土した。



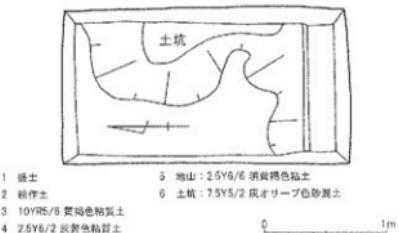
第11図 下出遺跡 調査区位置図



第12図 下出遺跡15-1区 トレンチ位置図



第3層上面



第13図 下出遺跡15-1区 トレンチ平面・断面図



第14図 下出遺跡15-1区 出土遺物

第4節 黒田南遺跡

黒田南遺跡は阪南市の東部を流れる男里川によって形成された市内で最も広い平野部に位置し、北は黒田西遺跡、南は神光寺（蓮池）遺跡、西は鳥取遺跡、鳥取南遺跡に囲まれている。昭和63（1988）年度に阪南町教育委員会（当時）が実施した埋蔵文化財分布調査で発見された遺跡である。その後の30数件に及ぶ調査では、縄文時代の石器や弥生時代の遺物が出土しているものの、その時代に伴う遺構は検出されていない。しかし、多くの調査区から中世期の遺構や遺物が検出されていることから、この地が開発され、人々の定住が始まったのは中世期に入つてからと考えられる。

（1）15-1区（第15～18図）

調査区は黒田南遺跡の北東端に位置する。調査区に4ヶ所のトレンチを設定し、合計14.15m²の調査を行った。

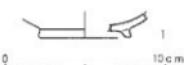
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層10YR 3/3暗褐色粘土、第5層10YR5/3にびい黄褐色風化礫混粘土で、第5層は地山である。地山はT.P. +13.00m～T.P. +13.20mの間で検出した。調査区中央部及び北部に設定した3・4トレンチでは第3層と第4層の間に2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土が存在し、遺物は瓦器、土師質土器が出土した。中世期の層と考えられる。1は4トレンチから出土した瓦器椀高台部である。それ以外の層から遺物の出土はなく、遺構も検出されなかった。



第15図 黒田南遺跡 調査区位置図

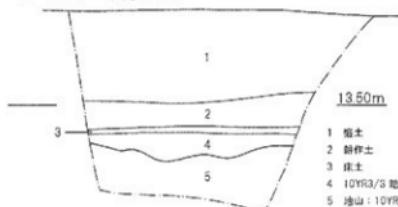


第16図 黒田南遺跡15-1区
トレンチ位置図

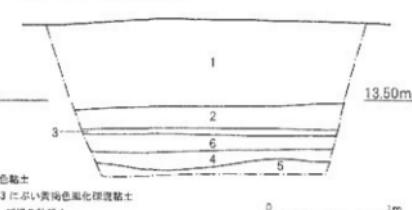


第18図 黒田南遺跡15-1区
出土遺物

1トレンチ 東側断面図



4トレンチ 東側断面図



第17図 黒田南遺跡15-1区 トレンチ断面図

第5節 鳥取遺跡

鳥取遺跡は市域の北部に広がる平野部の西側に位置し、北を鳥取北遺跡、東を黒田南遺跡、南を鳥取南遺跡と接する東西約200m、南北約350mの遺跡である。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。その後の調査では、中世期の構造や遺物が確認されているものの調査例は少なく、遺跡の性格は把握されていない。

(1) 14-1区 (第19~21図)

調査区は鳥取遺跡の中央部に位置する。調査区の北東部に3.0m×1.5mのトレンチを設定し、調査を実施した。

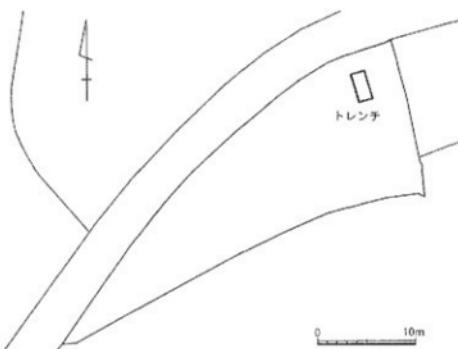
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層2.5Y4/2暗灰黄色粘質土(マンガン混)、第4層5Y4/2灰オリーブ色粘質土、第5層2.5Y6/4にぶい黄色粘質土(マンガン混)、第6層10YR4/4褐色粘質土、第7層2.5Y5/2暗灰黄色粘土混砂、第8層10YR5/6黄褐色礫混粘土で、第8層は地山である。調査区の北西に位置する既往調査98-1区の地山面で東西方向の流路を確認しており、トレンチ全体が同一の流路内に位置していると思われる。

遺物は第3層から須恵器、瓦器、土師質土器、第4層から瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、土師質有孔土錐、第5層から須恵器が出土した。流路の

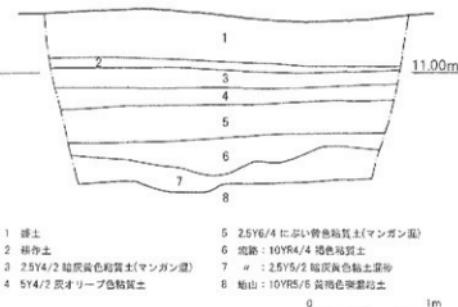
埋土と考えられる第6層からは須恵器、土師質土器、第7層からサヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器が出土した。第3~6層は中世期、第7層は平安時代の層と思われる。



第19図 鳥取遺跡 調査区位置図



第20図 鳥取遺跡14-1区 トレンチ位置図



第21図 鳥取遺跡14-1区 トレンチ東側断面図

第6節 鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が実施した埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。既往の調査では、弥生時代後期から中世期にかけての土坑、溝等の遺構や遺物が検出されている。



第22図 鳥取南遺跡 調査区位置図



第23図 鳥取南遺跡14-2区 トレンチ位置図

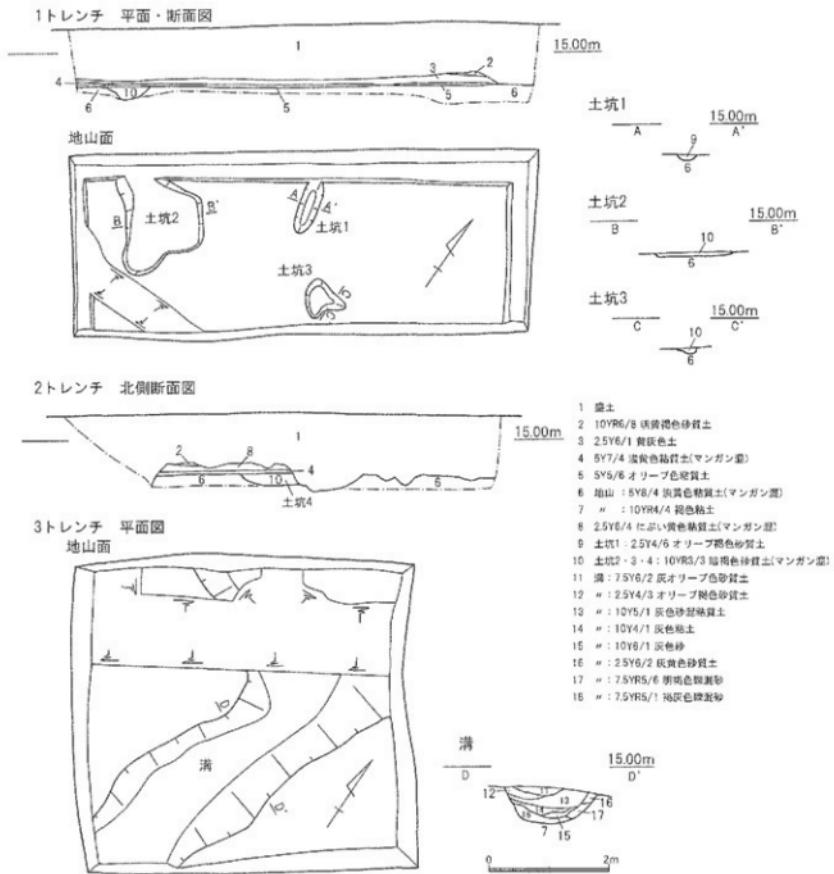
(1) 14-2区 (第22~25図)

調査区は鳥取南遺跡の東部に位置する。調査区に3ヶ所のトレンチを設定し、合計89.65m²の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層10YR6/8明黄褐色砂質土、第3層2.5Y6/1黃灰色土、第4層5Y7/4浅黄色粘質土(マンガン混)、第5層5Y5/6オリーープ色粘質土、第6層5Y8/4淡黄色粘質土(マンガン混)、第7層10YR4/4褐色粘土で、第6層以下は地山である。地山は地表面から約-1.00mで検出した。2トレンチでは第3層と第5層がなく、第2層と第4層の間に2.5Y6/4にぶい黄色粘質土(マンガン混)が存在した。3トレンチは既設建物の基礎埋設により地山面まで搅乱を受けており、包含層は確認できなかった。

遺物は第3層からサヌカイト、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塙土器、第4層から須恵器、土師質土器、製塙土器、第5層からサヌカイト、須恵器、瓦器、土師質土器が出土した。また2トレンチの2.5Y6/4にぶい黄色粘質土(マンガン混)からはサヌカイト、須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺が出土した。第3層から第5層は中世期の層と思われる。

遺構は1トレンチの地山面で土坑3基、2トレンチの地山面で土坑1基、3トレンチの地山



第24図 島取南遺跡14-2区 トレンチ平面・断面図

面で溝1条を検出した。

土坑1は東西約0.32m、南北0.90m以上、深さ約0.10mの楕円形である。埋土は2.5Y4/6オリーブ褐色砂質土で、遺物はサヌカイト、瓦器、土師質土器が出土した。中世期の土坑である。

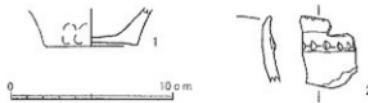
土坑2は東西約1.70m以上、南北約1.68m、深さ約0.07mの不定形で、埋土は10YR3/3暗褐色砂質土(マンガン混)。一部はトレンチ外に広がる。遺物は縄文土器、弥生土器が出土し、弥生時代の土坑と考えられる。1は弥生土器の壺底部である。

土坑3は東西約0.70m、南北約0.62m、深さ約0.10mの不定形で、遺物は出土しなかつたが、土坑2と同じ埋土であった。

土坑4は2トレンチの北側断面で確認した。深さ0.20mを測るが、トレンチ内での検出がわずかであったため規模は不明である。埋土は土坑2・3と同じで、遺物の出土はなかったが弥生時代の土坑と考えられる。

3トレンチで検出した溝は長さ6.80m以上、幅2.00m以上、深さ約0.70mの南北方向の溝である。埋土は砂質土、粘質土、砂、礫等が複雑に堆積している。遺物はサヌカイト、縄文土器、弥生土器、須恵器、瓦器、土師質土器が出土した。中世期の溝と思われる。2は縄文土器の深鉢口縁部。外面はケズリ調整、内面はナデ調整で、口縁端部にV字刻、口縁直下の貼付凸帯にはD字刻が施されている。縄文時代晩期のもである。

今回の結果を受けて、本調査を行うこととなった。



第25図 烏取南遺跡14-2区 出土遺物

第7節 西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は市域北部に広がる平野部の西側部に位置し、北東は波有手遺跡、東は鳥取南遺跡に接し、西約20mに戎遺跡が所在する。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査により発見され、現在までに30数件の調査が行われているが、調査は全て小規模なもので、遺跡の詳細は現在のところ不明である。

(1) 15-1区（第26・27図）

調査区は西鳥取遺跡の西端部に位置する。調査区に8ヶ所のトレンチを設定し、全体で28.86m²の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層10YR6/6明黄色粘土、第3層2.5Y6/1黄灰色砂混礫で、第2層以下は地山である。全てのトレンチは地山まで擾乱を受けており、正確な地山面の高さを確認することはできなかった。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかつた。



第26図 西鳥取遺跡 調査区位置図



第27図 西鳥取遺跡15-1区 トレンチ位置図

第8節 神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は市内で古くから知られている縄文時代草創期から近世期にかけての複合遺跡で、その規模は東西約700m、南北約800mに及ぶ。遺跡の中央部には市内最大の灌漑用溜池である蓮池が存在し、池底から採取されたサヌカイト製有茎尖頭器は、現在のところ市内で最古の遺物である。

既往の調査では弥生時代中期の方形周溝墓が検出されているほか、当遺跡の南部に位置する波太神社の神宮寺であった神光寺の瓦が出土していることも特筆される。

(1) 15-1区 (第28~31図)

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の東部に位置する。調査区の北部に2.2m×1.6mのトレンチを設定し、調査を行った。

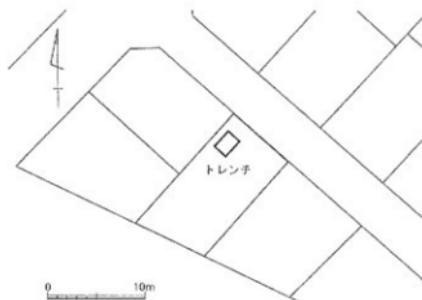
基本層序は第1層盛土、第2層7.5Y5/2灰オリーブ色粘土、第3層2.5Y6/4にぶい黄色粘土(マンガン混)、第4層2.5Y7/2灰黄色粘質土、第5層10YR4/2灰黄褐色砂混粘質土、第6層2.5Y7/6明黄褐色礫混粘質土で、第6層は地山である。地山は地表面から約-1.25mで検出した。

遺物は第2層～5層の各層より瓦器と土師質土器が出土した。また第4層からは焼土と炭化物の出土も見られた。第2～5層は中世期の層と考えられる。1～3は土師質小皿、4～6は瓦器碗で、1は第2層から、2は第3層から、3～6は第4層から出土した。7は底部に糸切痕の見られる土師質小皿で第5層から出土した。

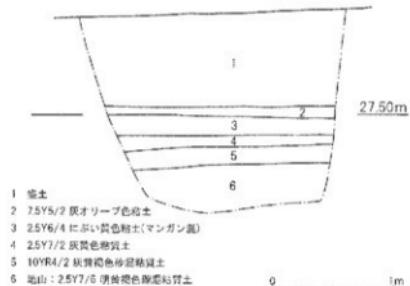
遺構は検出されなかった。



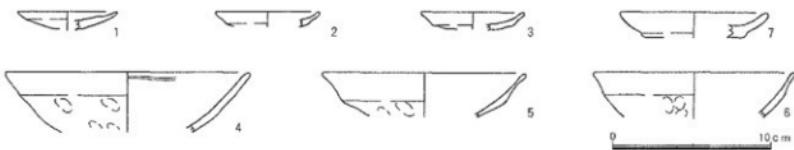
第28図 神光寺(蓮池)遺跡 調査区位置図



第29図 神光寺(蓮池)遺跡15-1区 トレンチ位置図



第30図 神光寺(蓮池)遺跡15-1区 トレンチ東側断面図



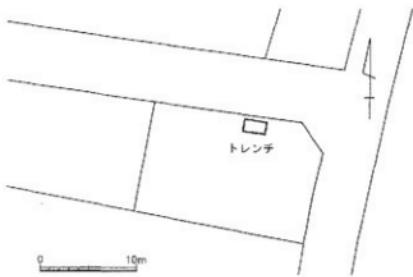
第31図 神光寺(蓮池)遺跡15-1区 出土遺物

(2) 15-2区 (第28・32・33図)

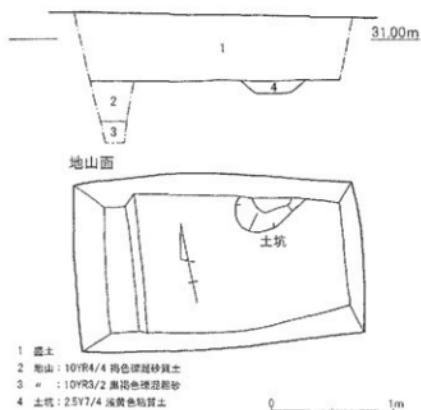
調査区は神光寺(蓮池)遺跡の東端部に位置する。調査区の北部に $2.3\text{m} \times 1.2\text{m}$ のトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層10YR4/4褐色礫混砂質土、第3層10YR3/2黒褐色礫混粗砂で、第2層以下は地山である。地山は地表面から約 -0.55m で検出した。

遺構は地山面で土坑を1基検出した。土坑は東西 0.54m 以上、南北 0.28m 以上、深さ 0.11m を測り、北部はトレンチの外に広がる。埋土は2.5Y7/4浅黄色粘質土で、遺物は近世瓦の小片が1点出土したのみである。



第32図 神光寺(蓮池)遺跡15-2区 トレンチ位置図



第33図 神光寺(蓮池)遺跡15-2区 トレンチ平面・断面図

第9節 自然田遺跡

自然田遺跡は男里川の支流である菟砥川の右岸に位置し、昭和61(1986)年度の民間開発工事に伴う調査で発見された。その調査で遺構は検出しなかったが、サヌカイト製の石器や中世期の遺物が出土している。その後に行った遺跡北部の調査では、遺構の検出には至っていないものの、中世期から近世期の遺物が若干出土し、南部の99-1区、05-1区では古墳時代中期の竪穴住居を検出している。また99-1区からは、多数のサヌカイト剥片とともにサヌカイト製石器が数多く出土している。

(1) 14-1区 (第34~36図)

調査区は自然田遺跡の中央部に位置する。調査区に2.1m×1.9mの1トレンチ、3.2m×1.9mの2トレンチを設定し、調査を行った。

基本層は第1層耕作土、第2層床土、第3層10YR5/6黄褐色礫混粘質土で、第3層は地山である。地山は地表面から約-0.25mで検出した。

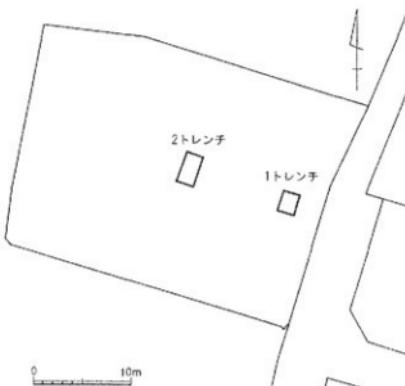
遺構は2トレンチの地山面で土坑を2基検出した。

土坑1は東西1.90m以上、南北1.95m以上、深さ0.37mを測り、大半がトレチ外へ広がる。埋土は上層が2.5Y5/4黄褐色粘質土、下層が7.5YR4/2灰褐色粘土(炭化物混)である。

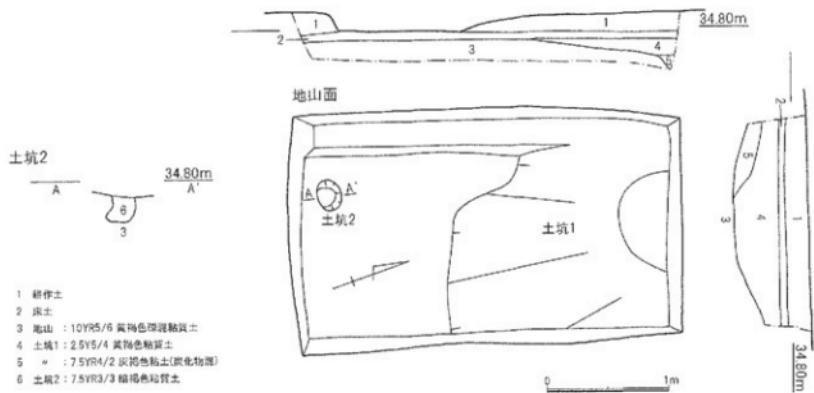
土坑2は東西0.25m、南北0.20m、深さ0.20m、埋土は7.5YR3/3暗褐色粘質土で、形状から倒木痕と思われる。土坑1・2ともに遺物は出土しなかった。



第34図 自然田遺跡 調査区位置図



第35図 自然田遺跡14-1区 トレンチ位置図



第36図 自然田遺跡14-1区 2トレンチ平面・断面図

第10節 貝掛遺跡

貝掛遺跡は本市の中央部を流れる糸井坊川と花折川に挟まれた南北に長い谷に位置する。昭和61(1986)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った調査では、中世期の溝が数条検出されたほか、サヌカイト製石槍や石鎌、土師器、須恵器、瓦器、近世陶磁器等、様々な時代の遺物が確認されている。

また、同年に財団法人大阪府埋蔵文化財協会(当時)が実施した調査では、近世期の建物跡が確認され、文献や絵図等に記載されている同時代の集落「舞村」の存在が裏付けられた。その後、平成元(1989)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った調査により、7世紀前半の建物跡を検出したほか、土坑から金銅製耳環や奈良三彩の八曲長杯等、特異な遺物が出土している。

(1) 15-1区(第37・38図)

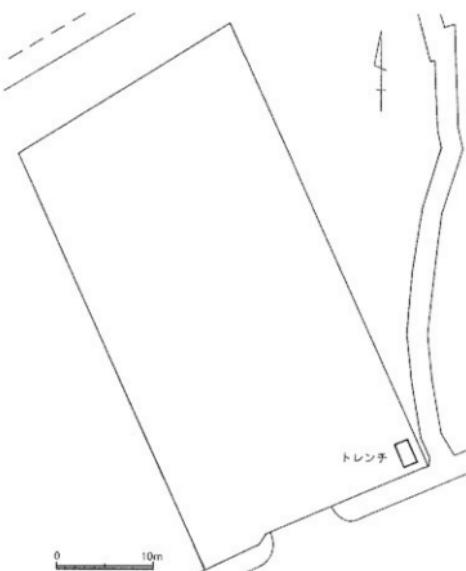
調査区は貝掛遺跡の北部に位置する。調査区の南東端に2.6m×1.5mのトレーニチを設定し調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層7.5Y5/3灰オリーブ色粘土、第4層5Y6/4オリーブ黄色粘土で、第3層以下は地山である。地山は地表面から約-1.60mで検出した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかつた。



第37図 貝掛遺跡 調査区位置図



第38図 貝掛遺跡15-1区 トレーニチ位置図

第11節 箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は阪南市の北西部、茶屋川とその支流である飯ノ峯川が形成する扇状地に位置する。平成5(1993)年度に財団法人大阪文化財センター(当時)が行った区画整理事業に伴う遺跡南部の調査では、奈良時代に掘立柱建物群が築造され、室町時代には大規模な土地改変で耕地化されたことが分かっている。一方、遺跡北部は海岸線に近いことから中世期の蛸壺をはじめとする漁具が出土しており、漁労集落の存在が想定されるものの、旧市街のため調査例は少なく、現在のところ詳細は不明である。

(1) 15-1区 (第39~42図)

調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査区の北部に2.7m×2.4mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層2.5Y3/2黒褐色粘質土、第3層10YR7/8黄橙色風化礫混粘土で、第3層は地山である。地山は地表面から約-0.60mで検出した。

遺物は第2層から瓦器、土師質土器、瓦質土器、青磁、白磁、青白磁、土師質真蛸壺、中世瓦が出土した。中世期の包含層と考えられる。1~6は瓦器で1~3は椀、4~6は小皿。7は瓦質土器で、内外面共ヘラケズリが残っており、火鉢と思われる。8は青白磁の椀で、外面にヘラで細い蓮弁が施されている。14世紀の中国磁器である。

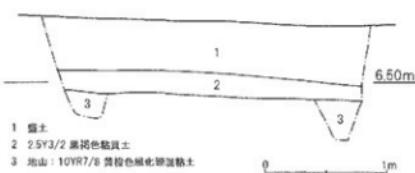
遺構は検出されなかった。



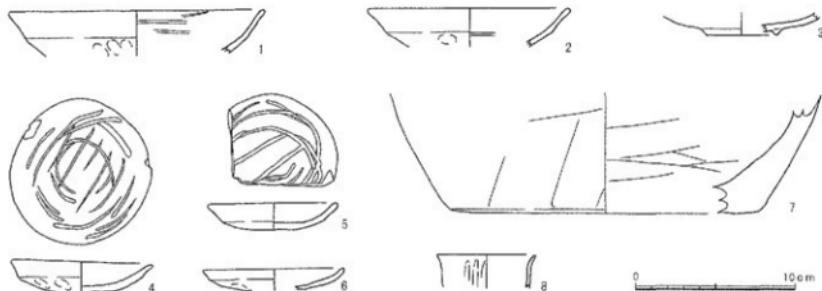
第39図 箱作今池遺跡 調査区位置図



第40図 箱作今池遺跡15-1区 トレンチ位置図



第41図 箱作今池遺跡15-1区 トレンチ南側断面図

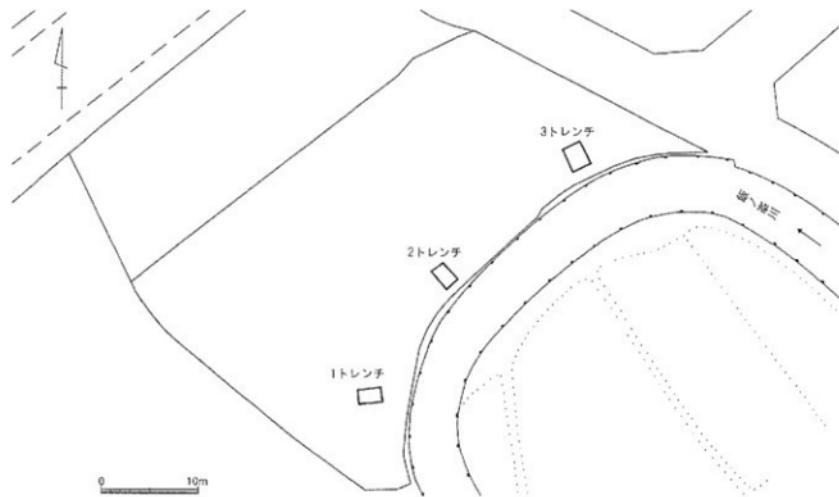


第42図 箱作今池遺跡15-1区 出土遺物

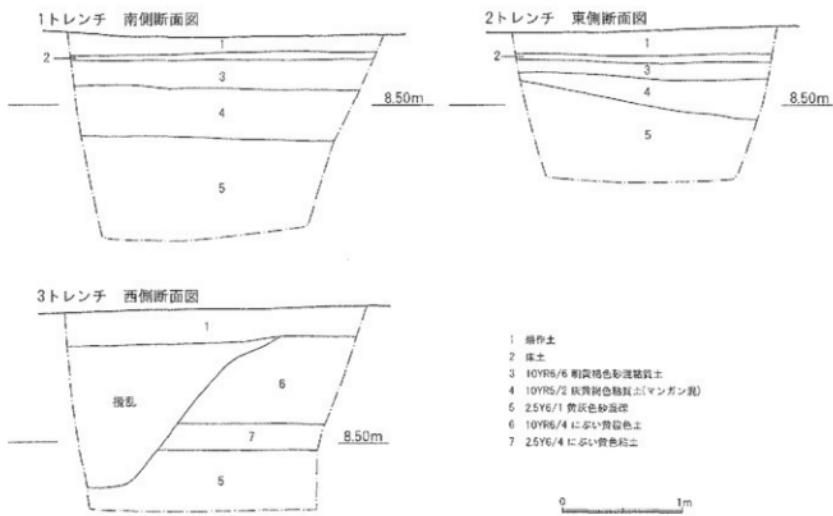
(2) 15-2区 (第39・43・44図)

調査区は箱作今池遺跡の南西端に位置する。調査区に3ヶ所のトレンチを設定し、全体で 13.00 m^2 の調査を行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層10YR6/6明黄褐色砂混粘質土、第4層10YR5/2灰黄褐色粘質土(マンガン混)、第5層2.5Y6/1黄灰色砂混礫である。3トレンチは第1層と第5層の間に第2~4層がなく、10YR6/4にぶい黄橙色土と2.5Y6/4にぶい黄色粘土が存在する。1・3トレンチは地表面より約-1.70m、2トレンチは約-1.20m、それぞれ工事における削平面まで掘削を試みたが、地山は確認できなかった。



第43図 箱作今池遺跡15-2区 トレンチ位置図



第44図 箱作今池遺跡15-22区 トレンチ断面図

当調査区の南東側で飯ノ峯川が大きく蛇行しており、第5層はその堆積と考えられる。また、3トレンチを設定した調査区東部は他の場所より地表面が約0.50m高くなっており、第6・7層は耕地利用のため整地を行った可能性が考えられる。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。

第12節 田山東遺跡

田山東遺跡は昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。その後の調査では、蛸壺、土錘等、漁労関連の遺物や中国製の青磁、白磁等が出土しているものの遺跡の詳細な性格は不明である。

平成6(1994)年度、平成25(2013)年度の調査で中世期の土師質真蛸壺焼成遺構が検出されていることが特筆され、特に平成25年度の調査では8基もの窯が検出された。



第45図 田山東遺跡 調査区位置図



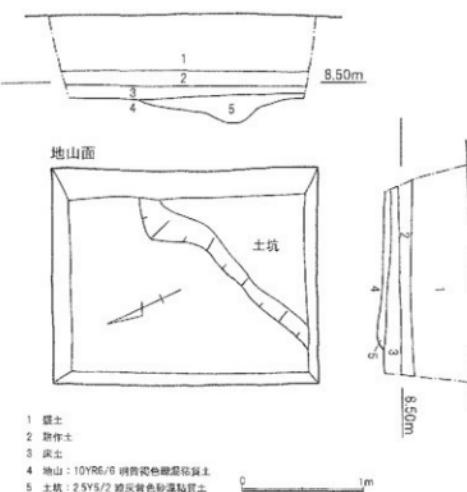
第46図 田山東遺跡 トレンチ位置図

(1) 14-1区 (第45~48図)

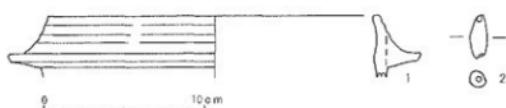
調査区は田山東遺跡の西部に位置する。調査は調査区の南部に2.2m×1.8mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層10YR6/6明黄褐色疊混粘質土で、第4層は地山である。地山は地表面から約-0.70mで検出した。

遺構は地山面で東西1.40m以上、南北1.35m以上、深さ約0.23mの土坑を検出した。埋土は2.5Y5/2暗灰黄色砂混粘質土で、遺物は土師質土器、瓦質土器、焼締陶器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、スサ入焼土塊が出土した。中世期の遺構と考えられる。1は瓦質羽釜、2は土師質管状土錘である。



第47図 田山東遺跡14-1区 トレンチ平面・断面図



第48図 田山東遺跡14-1区 出土遺物

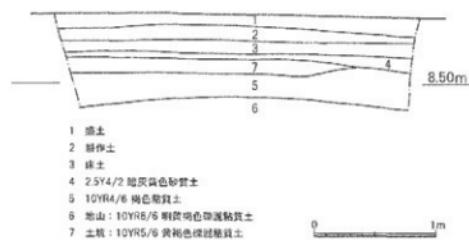
(2) 14-2区

(第45・46・49・50図)

調査区は田山東遺跡の西部に位置する。調査区に3.0m×1.7mのトレンチを設定し調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層2.5Y4/2暗灰黄色砂質土、第5層10YR4/6褐色粘質土、第6層10YR6/6明黄褐色疊混粘質土で、第6層は地山である。地山は地表面から約-0.80mで検出した。

遺物は第4層より土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、製塙土



第49図 田山東遺跡14-2区 トレンチ南側断面図



第50図 田山東遺跡14-2区 出土遺物

器、中世瓦、第5層より須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺が出土した。第4・5層とともに中世期の層である。1は第5層から出土した土師質小皿である。

遺構は第5層上面で土坑を1基検出した。東西2.40m以上、南北0.80m以上、深さ約0.14mで、トレンチ南東の外に広がっている。埋土は10YR5/6黄褐色礫混粘質土で、遺物は出土しなかつたが、層序から中世期の遺構と考えられる。

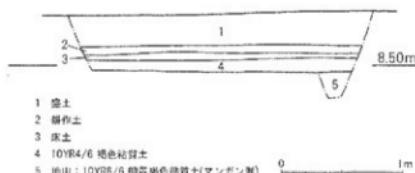
(3) 15-1区（第45・46・51図）

調査区は田山東遺跡の西部に位置する。調査区の南部に2.5m×1.6mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層10YR4/6褐色粘質土、第5層10YR6/6明黄褐色粘質土(マンガン混)で、第5層は地山である。地山は地表面から約-0.50mで検出した。

遺物は出土しなかつたが、隣接する既往調査で当調査区の第4層と比定できる層から須恵器、瓦器、土師質土器等が出土しているため、第4層は中世期の包含層と考えられる。

遺構は検出されなかつた。



第51図 田山東遺跡15-1区 トレンチ南側断面図

第13節 下出範囲外

(1) 15-1区（第52～54図）

調査区は阪南市の北東部に位置する。当調査区は埋蔵文化財包蔵地ではないが、北側に下出遺跡が隣接しているため、遺跡の有無を確認するべく調査を実施した。

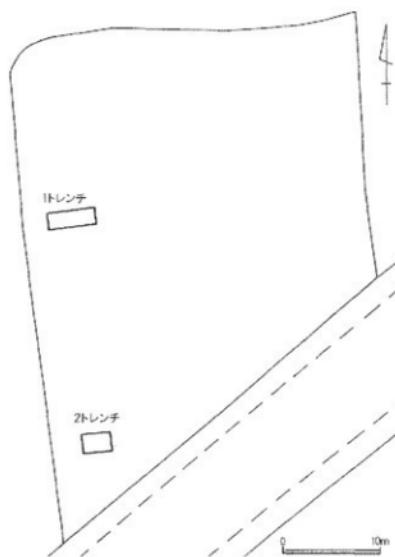
調査区に2ヶ所のトレンチを設定し、合計14.50m²の調査を行った。

基本層序は1トレンチでは、第1層盛土、第2層耕作土、第3層5YR3/3暗赤褐色礫混土、第4層7.5YR5/4にぶい褐色粘質土、第5層10YR4/6褐色礫混粘質土で、第5層は地山である。2トレンチでは第2・3層がなく、第4層の上に5YR4/2灰褐色土が存在した。地山は、2トレンチでは地表面より約-0.80mで検出した。しかし、1トレンチでは工事の及ぶ地表面から約-2.00mまで掘削したが検出できず、サブトレンチにより約-2.40mで確認した。

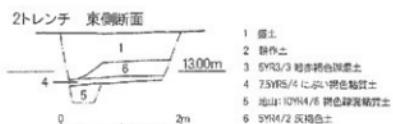
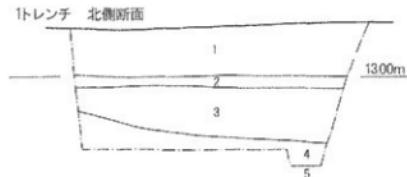
遺構は検出せず、遺物も2トレンチの5YR4/2灰褐色土から近世期と思われる瓦が1点出土したのみである。



第52図 下出範囲外 調査区位置図



第53図 下出範囲外15-1区 トレンチ位置図



第54図 下出範囲外15-1区 トレンチ断面図

第14節 黒田範囲外

(1) 15-1区 (第55~57図)

調査区は阪南市の北部にあたり、皿田池古墳の東約20mに位置する。また、直線距離にして約500mで海岸部に至る。当地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、開発面積が比較的広いため試掘調査を実施した。

調査区に3ヶ所のトレンチを設定し、合計12.97m²の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層7.5Y5/2灰オリーブ色砂混粘土、第4層5Y6/4オリーブ黄色粘土で、第4層は地山である。地山は北部の1・2トレンチではT.P. +7.80m、南部の3トレンチではT.P. +8.30mで検出しており、北へ向かって下がる地形である。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。

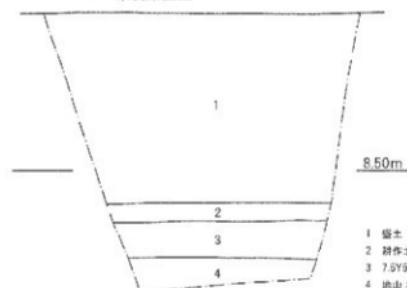


第55図 黒田範囲外 調査区位置図



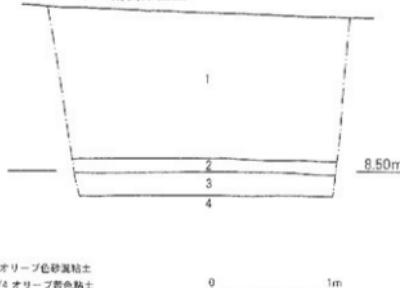
第56図 黒田範囲外15-1区 トレンチ位置図

1トレンチ 東側断面図



- 1 盛土
- 2 耕作土
- 3 7.5Y5/2 灰オリーブ色砂混粘土
- 4 地山 - 5Y6/4 オリーブ黄色粘土

3トレンチ 南側断面図



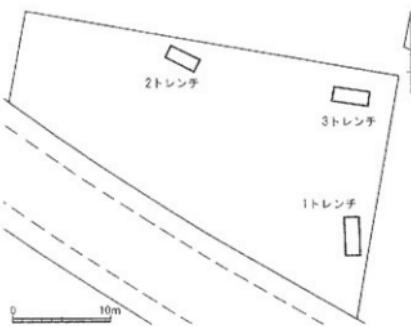
- 0 1m

第57図 黒田範囲外15-1区 トレンチ断面図

第15節 自然田範囲外



第58図 自然田範囲外 調査区位置図



第59図 自然田範囲外15-1区 トレンチ位置図

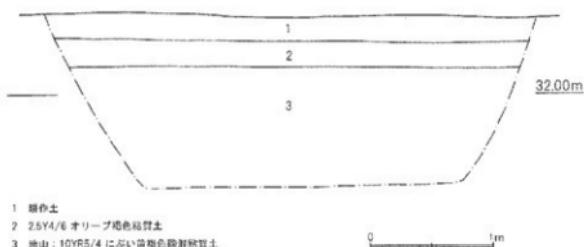
(1) 15-1区 (第58～60図)

調査区は亀川西遺跡の西約30mに位置する。当調査区は埋蔵文化財包蔵地ではないが、当地における埋蔵文化財の情報が乏しいため、状況を把握するため調査を実施した。

調査区に3ヶ所のトレンチを設定し、合計 16.31m^2 の調査を行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層2.5Y4/6オリーブ褐色粘質土、第3層10YR5/4にぶい黄褐色礫混粘質土で、第3層は地山である。2トレンチでは第2層がなく、3トレンチでは第1・2層が存在しなかった。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第60図 自然田範囲外15-1区 1トレンチ東側断面図

第16節 鳥取中範囲外

(1) 15-1区（第61～63図）

調査区は阪南市東部に位置し、周辺には東約170mに向出遺跡、西約250mに正方寺遺跡、北約250mに水附遺跡、室堂遺跡が所在する。当地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、周辺での調査例が乏しいため試掘調査を実施した。

調査区に2ヶ所のトレンチを設定し、合計8.91m²の調査を行った。

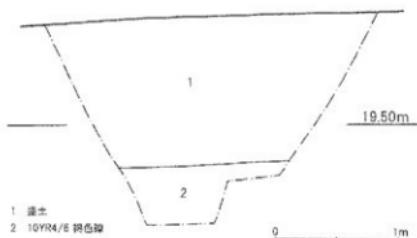
基本層序は第1層盛土、第2層10YR4/6褐色礫で、工事による影響が及ぶ地表面より約-1.70mまで掘削したが、遺物包含層や明確な地山の検出には至らなかった。



第61図 鳥取中範囲外 調査区位置図



第62図 鳥取中範囲外15-1区 トレンチ位置図



第63図 鳥取中範囲外15-1区 2トレンチ南側断面図

第17節 和泉鳥取範囲外

(1) 14-1区（第64・65図）

調査区は阪南市から泉南市にまたがる丘陵の中腹に位置し、周辺には南西約150mに和泉鳥取遺跡、西約200mに高田南遺跡が所在する。当地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、周辺における調査例が乏しいため試掘調査を実施した。

調査区内の高低差は約10.00mあり、下方に1~3トレンチ、中間部に4・5トレンチ、上方に6・7トレンチを設定し、合計49.52m²の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層5Y7/1灰白色砂混粘土、第3層10YR7/8黄橙色粘土で、1~3トレンチでは第2層が存在しない。遺物包含層は存在せず、第2層以下は地山である。

遺構は検出しなかった。



第64図 和泉鳥取範囲外 調査区位置図



第65図 和泉鳥取範囲外14-1区 トレンチ位置図

報 告 書 抄 錄

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう33							
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要33							
副書名								
卷次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	54							
編著者名	田中早苗・上野仁・須崎雄一朗							
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室							
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 072-471-5678							
発行年月日	2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ありがな 所在地	コード 市町村 番 地番 番号	北緯 ° ′ ″	東經 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
おき 尾崎 清水	おき 尾崎 清水	27232	68	34 21 37	135 14 53 ~ 1007	4.25	記録保存調査	
うま 馬川	うま 馬川	27232	39	34 21 24	135 15 01 ~ 1218	9.76	記録保存調査	
しも 下出	しも 下出	27232	66	34 21 16	135 15 05 ~ 0626	2.99	記録保存調査	
くろ 黒田 南	くろ 黒田 南	27232	51	34 21 01	135 14 39 ~ 0421	14.15	記録保存調査	
とつ 烏取	とつ 烏取	27232	53	34 21 00	135 14 21 ~ 0109	4.50	記録保存調査	
とつ 烏取 南	とつ 烏取 南	27232	55	34 20 52	135 14 21 ~ 0129	89.65	記録保存調査	
にし 西鳥取	にし 西鳥取	27232	56	34 20 52	135 14 07 ~ 1111	28.86	記録保存調査	
じんこう 神光寺(蓮池)	じんこう 神光寺(蓮池)	27232	20	34 20 36	135 14 53 ~ 0902	3.82	記録保存調査	
じんこう 神光寺(蓮池)	じんこう 神光寺(蓮池)	27232	20	34 20 31	135 14 58 ~ 1014	2.76	記録保存調査	
じの 田	じの 田	27232	35	34 20 20	135 15 29 ~ 0206	10.07	記録保存調査	
かい 貝掛	かい 貝掛	27232	19	34 20 32	135 13 27	20151026	3.90	
はこ 箱作 今池	はこ 箱作 今池	27232	24	34 20 24	135 12 55 ~ 0415	6.48	記録保存調査	
はこ 箱作 今池	はこ 箱作 今池	27232	24	34 20 11	135 12 53 ~ 0728	13.00	記録保存調査	
た 田 山 東	た 田 山 東	27232	58	34 20 14	135 12 31 ~ 0331	3.96	記録保存調査	
た 田 山 東	た 田 山 東	27232	58	34 20 14	135 12 31 ~ 0331	5.10	記録保存調査	
た 田 山 東	た 田 山 東	27232	58	34 20 14	135 12 30 ~ 0410	4.00	記録保存調査	
しも 下出 篠山外	しも 下出 篠山外	27232	-	34 21 12	135 15 00 ~ 1224	14.50	試掘・確認調査	
くろ 黒田 篠山外	くろ 黒田 篠山外	27232	-	34 21 21	135 14 38 ~ 0630	12.97	試掘・確認調査	
じの 田 篠山外	じの 田 篠山外	27232	-	34 20 26	135 15 07 ~ 0917	16.31	試掘・確認調査	
じの 田 篠山外	じの 田 篠山外	27232	-	34 20 51	135 15 16 ~ 1023	8.91	試掘・確認調査	
いざり 田 篠山外	いざり 田 篠山外	27232	-	34 20 36	135 16 00 ~ 0317	49.52	試掘・確認調査	

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎清水	散布地	古墳時代～中世期		弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺	
馬川	散布地	中世期		サヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺、土師質有孔土錐、中世瓦、スサ入り焼土塊	
下出	散布地	近世期	土坑	黒色土器、瓦器、土師質土器、須恵質土器、青磁、磁器、土師質真蛸壺、炭化木片	
黒田南	散布地	中世期		瓦器、土師質土器	
鳥取	散布地	平安時代～中世期		サヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、土師質有孔土錐	
鳥取南	散布地	弥生時代～中世期	土坑、溝	サヌカイト、繩文土器、弥生土器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺	
西鳥取	散布地				
神光寺(蓮池)	寺院跡、散布地、その他の墓	中世期		瓦器、土師質土器、焼土塊、炭化木片	
神光寺(蓮池)	寺院跡、散布地、その他の墓	近世期	土坑	近世瓦	
自然田	散布地		土坑		
貝掛	集落跡				
箱作今池	散布地、集落跡、生産遺跡	中世期		瓦器、土師質土器、瓦質土器、青磁、白磁、青白磁、土師質真蛸壺、中世瓦	
箱作今池	散布地、集落跡、生産遺跡				
田山東	散布地	中世期	土坑	土師質土器、瓦質土器、焼締陶器、土師質真蛸壺、土師質管状土錐、スサ入り焼土塊	
田山東	散布地	中世期	土坑	須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、製塩土器、中世瓦	
田山東	散布地	中世期			
下出範囲外		近世期		近世瓦	
黒田範囲外					
自然田範囲外					
鳥取中範囲外					
和泉鳥取範囲外					



尾崎清水遺跡15-1区
トレンチ全景(北より)

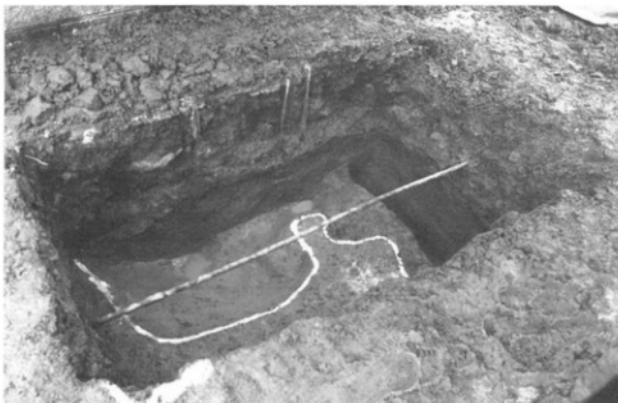


馬川遺跡15-2区
1トレンチ全景(北より)



馬川遺跡15-2区
2トレンチ全景(西より)

図版2



下出遺跡15-1区
トレンチ全景(北より)



黒田南遺跡15-1区
1トレンチ全景(南より)



黒田南遺跡15-1区
2トレンチ全景(北より)



黒田南遺跡15-1区
3トレンチ全景(南より)



黒田南遺跡15-1区
4トレンチ全景(北より)



鳥取遺跡14-1区
トレンチ全景(南より)



鳥取南遺跡14-2区
1トレンチ全景(東より)



鳥取南遺跡14-2区
2トレンチ全景(西より)



鳥取南遺跡14-2区
3トレンチ全景(南より)



西鳥取遺跡15-1区
1トレンチ全景(西より)



西鳥取遺跡15-1区
2トレンチ全景(南より)



西鳥取遺跡15-1区
3トレンチ全景(南より)



西鳥取遺跡15-1区
4トレンチ全景(北より)



西鳥取遺跡15-1区
5トレンチ全景(南より)



西鳥取遺跡15-1区
6トレンチ全景(西より)



西鳥取遺跡15-1区
7トレンチ全景(南より)



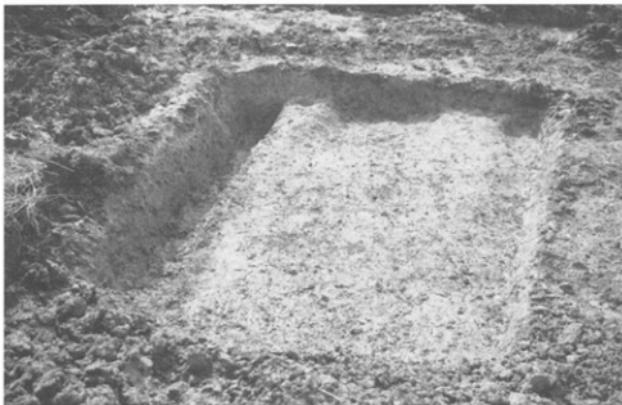
西鳥取遺跡15-1区
8トレンチ全景(北より)



神光寺(蓮池)遺跡15-1区
トレンチ全景(北より)



神光寺(蓮池)遺跡15-2区
トレンチ全景(東より)



自然田遺跡14-1区
1トレンチ全景(北より)



自然田遺跡14-1区
2トレンチ全景(南より)



貝掛遺跡15-1区
トレンチ全景(北より)



箱作今池遺跡15-1区
トレンチ全景(東より)



箱作今池遺跡15-2区
トレンチ全景(北より)



箱作今池遺跡15-2区
2トレンチ全景(北より)



箱作今池遺跡15-2区
3トレンチ全景(北より)



田山東遺跡14-1区
トレンチ全景(北より)



田山東遺跡14-2区
トレンチ全景(東より)



田山東遺跡15-1区
トレンチ全景(東より)



下出範囲外15-1区
1トレンチ全景(東より)



下出範囲外 15-1区
2トレンチ全景(西より)



黒田範囲外 15-1区
1トレンチ全景(南より)

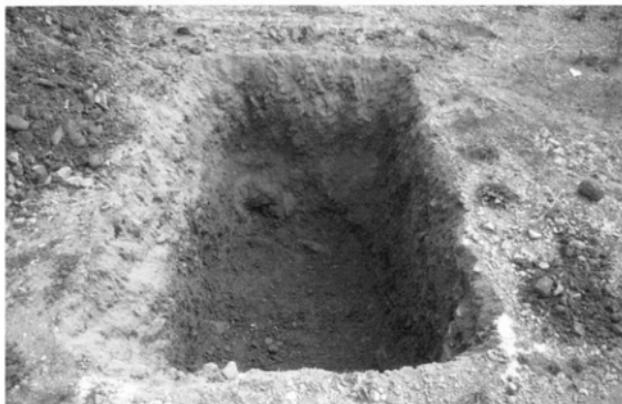


黒田範囲外 15-1区
2トレンチ全景(西より)





自然田範囲外15-1区
3トレンチ全景(南より)



鳥取中範囲外15-1区
1トレンチ全景(西より)



鳥取中範囲外15-1区
2トレンチ全景(西より)





和泉鳥取範囲外14-1区
4トレーニチ全景(南より)



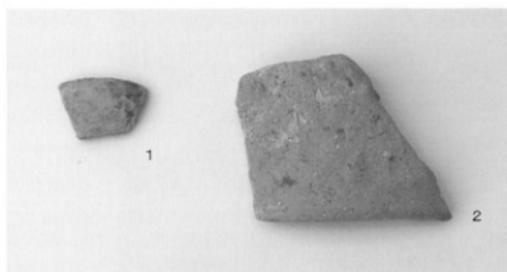
和泉鳥取範囲外14-1区
5トレーニチ全景(北より)



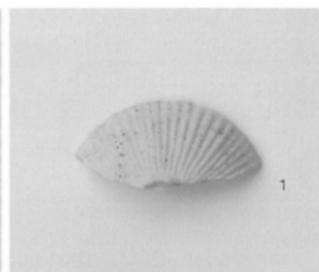
和泉鳥取範囲外14-1区
6トレーニチ全景(北より)



和泉鳥取範囲外14-1区
7トレーニチ全景(北より)



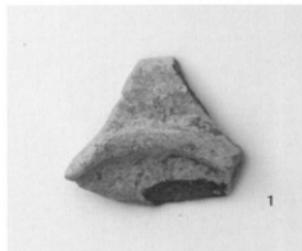
尾崎清水遺跡15-1区 出土遺物



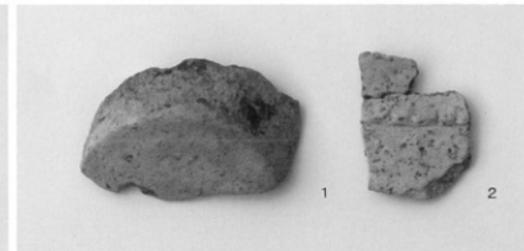
下出遺跡15-1区 出土遺物



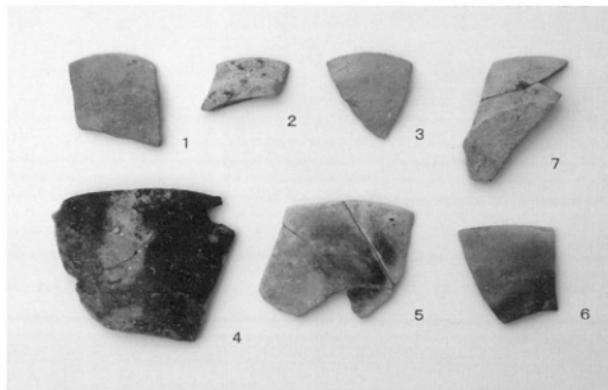
馬川遺跡15-2区 出土遺物



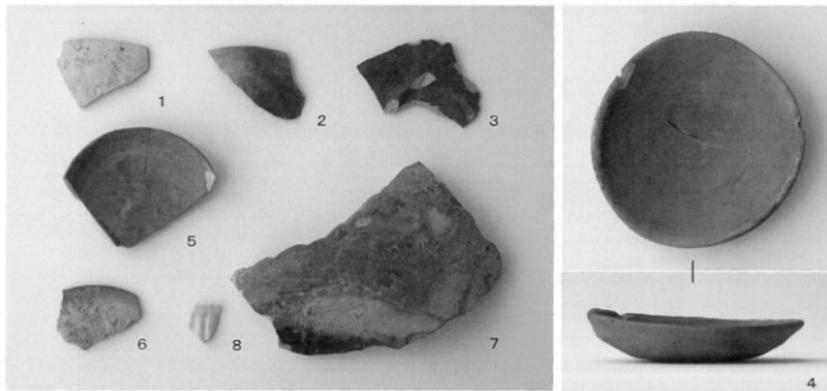
黒田南遺跡15-1区 出土遺物



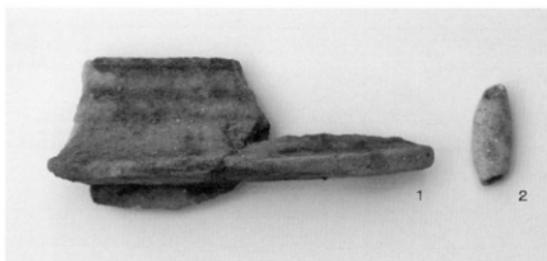
鳥取南遺跡14-2区 出土遺物



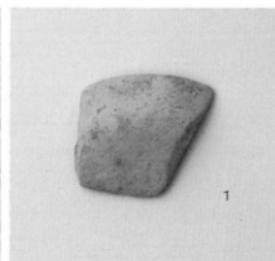
神光寺(蓮池)遺跡15-1区 出土遺物



箱作今池遺跡15-1区 出土遺物



田山東遺跡14-1区 出土遺物



田山東遺跡14-2区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 54

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 33

2016年3月

発行：阪南市教育委員会 生涯学習部
生涯学習推進室

大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：株式会社 带谷印刷所